

2017/2/6-2/12 デボーションガイド 「ユースマナ」 詩篇 27:4 私は一つのことを主に願った。 私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。	2017/2/6(月) Ⅱ テモテ 4:9-22 パウロの晩年には、彼の願い通りにならないことも多く起こりました。それまで一緒に福音のために働いてきた人たちがパウロの元を去ってしまうという大きな痛みを経験しました。パウロはテモテに、マルコを伴って一緒に来てくれるよう頼みます。マルコはかつて自分の都合で宣教旅行の途中で皆から離れてしまい、それが原因でバルナバと激しい反目を起こしました。(使徒 15:36～41) そんな彼が今や「務めのために役にたつ」と評価されるまでになりました。マルコを取り扱い、大きく成長させた神様は私たちに対しても同じ主です。パウロは自分の最期に近いことを予感していました。その中で彼がただ望んでいたことは、自分を通してみことばが余すところなく宣べ伝えられることでした。 マルコを通してどんな励ましを得ますか？また、パウロの生き方から何を思いますか？	2017/2/7(火) 申命記 12 章 モーセが具体的な教えとしてまず民に語ったのは、主への礼拝についての教えだったよ。それだけ礼拝は大切なんだね！約束の地において神の民は、神様が選ぶ場所で神様が言った通りにささげ物をして礼拝することが求められたよ。それは神様の前に低くなることで、神様との関係がクリアに親しくされるからなんだ。君は神様にどんな礼拝を捧げているかな？？神様を本当に大切に作る礼拝ってどんなものだろう？？今日！神様を心から礼拝して、祈ろう！賛美しよう！！	2017/2/8(水) 申命記 13 章 今日の箇所では、偶像礼拝へと民を誘惑する者たちへの警戒と対処を語っている。第一の誘惑者は、偽預言者または夢見る者。人は苦しみや痛みをかかえている時、それをすぐに解決してくれそうなものや人に飛びついてしまう弱さがある。第二の誘惑者は、家族や親友。親しい人達からの誘惑は、非常に巧妙である。第三の誘惑者は、町のよこしまな者たち(主を恐れず、主の命令に従わない人たち)。私たちは、主と主のことばに立ち続ける必要がある。「あなたは、必ずあなたの神、主の御声に聞き従い、私が、きょう、あなたに命じるすべての主の命令を守り、あなたの神、主が正しいと見られることを行わなければならない。」(18 節) 主は、私たちを悪から救ってくださる。今日の一日も、主とともに出かけよう。
2017/2/9(木) 申命記 14 章 「命令」 ■今日の箇所には「～してはならない。」という命令がたくさん書かれています。みなさんはこのように「～しなさい。」「～してはならない。」と言われることはありますか？あなたが従う時と、そうでない時の条件はありますか？ ■これらの命令を読む時には、当時の文化背景を知る必要があります。例えば食物に関する規定について、3～21 節で書かれています。食べてはならない食物がなぜきよくないかについては、衛生面や異教との関わりという諸説があります。 ■これらの命令の理由も明確に書かれています。「あなたがたは主の子どもである。」「あなたがたは主の聖なる国民である。」「あなたがいつも主を恐れることを学ぶために。」みなさんはこれらの理由をどのように受け取りますか？ ■私たちは毎日の行動を何の理由で決定しているのでしょうか。そこに「主との関係」はありますか？	2017/2/10(金) 申命記 15 章 ここでは分け与えることについてよく書かれている。自分が人に貸したものは7 年の終わりごとに「免除しなければならぬ」と3 節にあるが、それを聞いてみんなはどういう気持ちになったかな？分け与えることで神様があなたのすべての働きを祝福してくれます！さらに大事な事はあなた自身が神様の祝福をどれだけ受け取りたいと思っているかです。小さな事でもいいので今日なにかを分け与えることをしてみよう！それによって祝福を実感しよう！今日自分が祝福を受け取れるように祈ろう！	2017/2/11(土) 申命記 16 章 今日は神様が決めた3 つの祭りについて知ろう！ ・神様の言葉を信じて羊の血を門に塗った民だけが罪を過ぎ越され、エジプトの奴隷の状態から解放されたことを記念する『過越の祭り』 ・初穂の収穫から7 週を数え、神様に感謝する『七週の祭り』 ・秋の喜びを共に喜び、民がかつてテント(仮庵)での生活をしていた時に主が共にいたことを思い起こす『仮庵の祭り』 私たちも、イエス様の十字架によって罪を過ぎ越された者であり、神様からの収穫の恵みや最大の祝福である聖霊を与えられた者だね。そしてイエス様が私たちのうちに住んでいてくださる。その祝福を今日改めて味わい感謝しよう！	2017/2/12(日) 申命記 17 章 どんな社会(国、会社、学校、家庭、教会)でも、権威は必ず存在する。改めて権威を考えよう。欠陥のある牛や羊を主へのいけにえとしてささげることは、神の権威を軽んじていることになる。私たちは何をしても神様に栄光を！と生活しているはずなのに、神様の前に相應しくない態度や状態にいることはないだろうか？それは神様を軽んじていることになる。 そして権威に従っているだろうか？権威には従う必要がある。また権威を否定するなら、結果的に自分自身が権威になってしまう。生ける神様の権威に喜んで従おう！！

